

■殺虫殺菌剤：農業用

ルーチン[®]アドスピノ[™]箱粒剤

登録番号：22705
 毒性：－
 消防法：－
 有効年限：4年

成分 イミダクロプリド……2.0%
 スピノサド……1.0%
 イソチアニル……2.0%

物理的・化学的性状 類白色細粒

包装：10kg×1

◆特長

- 育苗箱処理でもち病、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、ウンカ類、イネヒメハモグリバエ、フタオビコヤガ、ニカメイチュウなどに対して高い防除効果を示します。
- 新規殺菌剤ルーチンと新技術「CR（コントロールリリース）」を適用したアドマイヤー、チョウ目に高い効果があるスピノにより、は種前から移植当日まで幅広い処理時期が可能になりました。
- 新規殺菌剤ルーチンは、植物病害抵抗性誘導型殺菌剤のため耐性菌発達のリスクが小さい薬剤です。
- ルーチン、アドマイヤー、スピノは優れた浸透移行性と長期残効性を有しています。

◆適用と使用方法

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イミダクロプリドを含む農薬の総使用回数	スピノサドを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	イネアザミウマ	育苗箱 (30×60 ×3cm、 使用土壌 約5ℓ) 1箱当り 50g	移植2日前 ～移植当日	1回	育苗箱の上から均一に散布する。	3回以内 (移植時までの処理は1回以内、本田での散布は2回以内)	1回	3回以内 (移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)
	穂枯れ (ごま葉枯病菌) 内穎褐変病		移植当日					
	苗腐敗症 (もみ枯細菌病菌) 苗立枯細菌病		は種時 (覆土前)					
	白葉枯病 もみ枯細菌病		は種時 (覆土前) ～移植当日					
	イネミズゾウムシ							
	イネドロオイムシ							
	ウンカ類							
ツマグロヨコバイ								
イネヒメハモグリバエ								
イネツトムシ								
フタオビコヤガ								
コブノメイガ								
ニカメイチュウ								
もち病								

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イミダクロプリドを含む農薬の総使用回数	スピノサドを含む農薬の総使用回数	イソシアニルを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	イネミズゾウムシ イネドロオウムシ ウンカ類 ツマグロヨコバイ イネヒメハモグリバエ イネツトムシ フタオビコヤガ コブノメイガ ニカメイチュウ いもち病	育苗箱 (30×60 × 3 cm、 使用土壌 約 5 ℓ) 1 箱当り 50 g	は種前	1 回	育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。	3 回以内 (移植時までの処理は 1 回以内、本田での散布は 2 回以内)	1 回	3 回以内 (移植時までの処理は 1 回以内、本田では 2 回以内)

ラベルをよく読み、ラベルの記載以外には使用しないで下さい。

◆注意事項

- (1)本剤を床土または覆土に混和処理する場合、処理後速やかに使用すること。また本剤を処理した床土または覆土を放置しないこと。
- (2)梅雨明け後の高温時の晩期栽培では、は種前及びは種時の処理により薬害が生じる恐れがあるので、これらの時期での使用を避けること。
- (3)軟弱徒長苗、むれ苗、移植適期を過ぎた苗などには薬害を生じるおそれがあるので注意すること。
- (4)本田の整地が不均整な場合は、薬害を生じやすいので、代かきは丁寧に行い、移植後田面が露出しないように注意すること。
- (5)いぐさ栽培予定水田では使用しないこと。また、本剤を処理した稲苗を移植した水田ではいぐさを栽培しないこと。
- (6)きく等の他作物に影響を及ぼす場合があるので、薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように散布すること。
- (7)本剤の使用に当っては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

◆安全使用上の注意

- (1)誤食などのないように注意すること。
- (2)かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

◆魚毒性

- (1)水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意すること。
- (2)散布器具及び容器の洗浄水は河川等に流さないこと。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。